

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一8:7~13「兄弟のために」

[7]「しかし、すべての人にこの知識があるのではありません。ある人たちは、今まで偶像になじんで来たため偶像にささげた肉として食べ、それで彼らのそのような弱い良心が汚れるのです」

「この知識」とは神は天地万物の創造者である唯一の神のみで、他の偶像の神など存在しないという知識。しかし、今まで偶像になじんで来て、信仰に入ったばかりの「ある人たちは」はそのような知識を十分には持っていなかった。それで知識のある先輩クリスチャンがこのような肉を食べているのを見て、それにならって食べるならば、それは偶像にささげた肉として、何らかの悪魔的な力を体に入れてしまうのではないか、あるいは影響を受けるのではないかと疑いながら食べることになるので、その結果、彼らの弱い良心が汚れてしまうのである。→ローマ14:23

[8]「しかし、私たちを神に近づけるのは食物ではありません。食べなくても損にはならないし、食べても益にはなりません」

ここでは神の祝福のあるなしは、食物にはよらないことをはっきりと教えている。

[9-10]「ただ、あなたがたのこの権利が、弱い人たちのつまずきとならないように、気をつけなさい。知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのを誰かが見たら、それによって力を得て、その人の良心は弱いのに、偶像の神にささげた肉を食べるようなことにならないでしょうか」

偶像にささげたものなど何でもないと平気で食べることができても、その権利が信仰の弱い人たちのつまずきとならないように気を配らなければならない。そのような配慮をせずに、偶像の祭りなどに参加し、そこで食事をしているのを、たまたま通りかかった偶像に関する確固たる確信も知識もないクリスチャンが見たとしたら、その人はその姿にならって信仰的確信もないのに偶像の神にささげた肉を食べてしまうかもしれない。

[11]「その弱い人は、あなたの知識によって、滅びることになるのです。キリストはその兄弟のためにも死んでくださったのです」

この場合の「滅び」とは、地獄へ行くということではなく、霊的に傷つけられて苦しみ悩むという意味。キリストは偶像に対する知識も確信もまだない信仰の弱い兄弟のためにも死んでくださったことを忘れてはならない。

[12]「あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を踏みじるとき、キリストに対して罪を犯しているのです」

同じクリスチャンであっても、その兄弟姉妹に対して罪を犯す者は同様にキリストに対して罪を犯しているのである。神を愛する者は同様に兄弟をも愛すべきである。→Iヨハネ4:21　そしてパウロはそのことばを自ら実行し、実証していく。

[13]「ですから、もし食物が私の兄弟をつまずかせるなら、私は今後いっさい肉を食べません。それは、私の兄弟につまずきを与えないためです」　私たちも自分が聖書的知識だけでなく、愛に立って行動しているかよく吟味する必要がある。